



どこでもミュージアム わくわくワークシート

芦屋市立美術博物館
保護者用

「どこでもミュージアム わくわくワークシート」について

児童・生徒の皆さんがミュージアムに興味を持っていただくきっかけとして、阪神間にある美術館・博物館が連携し、各館の特色を活かしたワークシートをご用意しました。ご自宅や学校で、手軽に楽しみながら取り組んでいただき、魅力あふれる美術作品や心を動かす歴史資料等がたくさん集まるミュージアムを、より身近に感じてもらえればと思います。

作品鑑賞のすすめ



—美術館での作品の楽しみ方（子どもたちへ）

- ① 「!」「?」を感じる作品を探してみましょう
- ② なぜそう思ったのか考えてみましょう。作品と会話するように、疑問、質問、突っ込みなどなど
- ③ 「!」や「?」が「!?!」や「?!」になったら、あなたにとってその作品は特別なものになっています。

—作品の楽しみ方（保護者のみなさんへ）

大人だから、素人だからといって、作品の解答を教える必要はありません。様々な疑問を一緒に考えてみてください。「これなんだろう?」「なんでかな?」と疑問が出てきたら、美術館の図録や図書館の本、インターネットなどからヒントを探してください。疑問点を調べることで得られる知識は、美術作品を深く味わう手だてとなります。同時に、自分自身で問いを立てて、何かしらの答えを見つける旅は、全ての疑問に共通する大切なプロセスとなります。これからの時代に求められる力であり、美術にはそのきっかけがつかまっています。

元永定正さんと具体美術協会について

元永定正さんは、1950年代に《水》という作品を作りました。色水を袋状のビニールに入れて上から吊るした形状の作品や、色水を入れたビニールチューブがハンモック状に吊られ空間を横切るように設置した作品のほか、煙をつかった舞台でのパフォーマンスを発表しました。併せて、今回紹介した「たらし込み技法」を用いた作品や、アクリル絵具やエアブラシを使った明るい色調でのびのびと明快な形が登場する作品を手掛けるようになりました。

元永さんは、具体美術協会（具体）の会員でした。このグループでは、これまで見たことのない作品を作ろうという目的で精力的に制作を行い、たくさんの作家たちがいろいろな話し合いをしながら展覧会を開催しました。彼らは、展示室だけでなく、公園やデパートの屋上、舞台などさまざまな場所で、実験的な作品を発表しています。

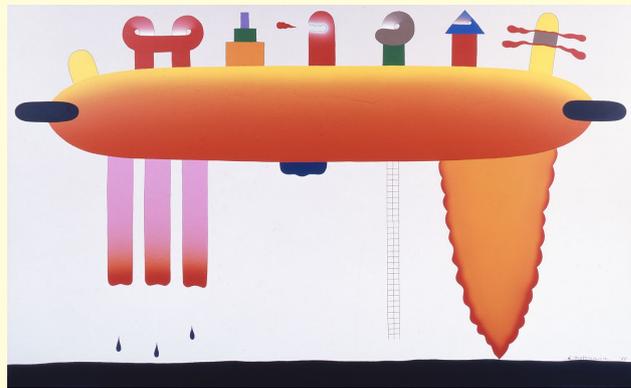
足で描く人や、体当たりで紙を破ったり、明滅する電球で服を作ったり、絵具が入った瓶を投げつけて描いたり、木工用ボンドを使ってみたりと、身近にあるものを使って、新しい表現方法で作品を生み出していました。

具体会員たちの作品は、多くの美術館に収蔵されています。もっとたくさんいろんな人の作品を見たい!と思ったら訪ねてみてください。

※展示されているかは美術館のホームページを確認してください。わからなければ問い合わせしてみてください。美術館の人たちはみんな優しいです。



元永定正《作品》 1962年 134.0×182.5cm 油彩、水性樹脂塗料、綿布、板



元永定正《うえのかたちはななつ》 1988年 160.0×260.0cm アクリル、布

※いずれも芦屋市立美術博物館蔵

具体の作品を収蔵している主な美術館（関西編）

- ・ 芦屋市立美術博物館
- ・ 兵庫県立美術館 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 TEL:078-262-0901（代表）
- ・ 国立国際美術館 大阪府大阪市北区中之島 4-2-55 TEL：06-6447-4680（代表）
- ・ 京都国立近代美術館 京都市左京区岡崎円勝寺町 26-1 TEL:075-761-4111（代表）

具体美術協会（具体）／1954-1972

1954年、画家・吉原治良さん（1905-1972）をリーダーとして芦屋で結成されたグループです。グループの名前は「精神が自由であることを具体的に提示したい」という思いがあらわれたものです。

具体メンバーたちは、吉原さんが若い頃に藤田嗣治さんから受けた「人のまねをしない」という理念のもと、既成の美術の概念を超えた活動や作品を発表しました。彼らは展示室だけでなく、野外や舞台、空中を使った作品など新しい発想の企画を次々と打ち出し、これまでに類を見ない実験的で獨創性あふれる制作を展開しました。併せて、具体は結成した翌年の1955年1月に機関誌『具体』を創刊、国内外に送付し、グループの存在と活動を広くアピールしました。以後、『具体』は1965年の第14号まで刊行しています。

1957年、来日したフランスの美術批評家ミシェル・タピエさんから絶賛され積極的に海外へ紹介されます。1958年には「具体」展をニューヨークで開催、以降、欧米でたびたび展覧会を開き、具体は一躍世界で注目を集めることとなります。1962年には、吉原さんが所有している古い土蔵を改築して建設された「グタイピナコテカ」というスペースが大阪中之島で開館。メンバーによる連続個展や具体美術展、海外の作家を紹介する展覧会が開催されたほか、国内外から美術家や音楽家、批評家などが訪れ交流の場ともなり、具体の活動拠点として機能しました。

具体は、メンバーの加入や脱退が繰り返される中、1972年2月に吉原さんがくも膜下出血で急逝したことで、同年3月に解散することとなります。18年間におよぶ彼らの活動は、国際的にも重要な日本の戦後美術運動のひとつとして知られています。



第1回具体美術展（1955年・小原会館/東京）
写真提供：大阪中之島美術館



芦屋市立美術博物館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25

TEL:0797-38-5432

<https://ashiya-museum.jp>

🐦 ashiyabihaku 📺 YouTube 芦屋市立美術博物館

休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)

ご利用について

美術部門と歴史部門を併せた複合施設として1991年に開館。小出 楢重や吉原治良と具体美術協会、芦屋カメラクラブなど芦屋ゆかりの作家の作品とともに、芦屋の自然や歴史に関する文化財・考古資料を収蔵・展示しています。また、講座・ワークショップ、アートマーケットなども開催しています。